研究タイトル：

感情表出機能を持つinsubordinationの解釈・産出メカニズム

氏名：	平尾　恵美 HIRAO Emi	E-mail：	e.hirao@maizuru-ct.ac.jp
職名：	講師	学位：	修士（文学）
所属学会・協会：	日本英語学会，日本言語学会，関西言語学会，日本語用論学会， International Pragmatics Association，奈良女子大学英語英米文学会		

キーワード：	insubordination（従属節の主節用法，言いさし表現），感情表出，英語学・言語学，語用論
技術相談 提供可能技術：	・言語学的観点からのコミュニケーション教育 ・ことばや言語文化に関する公開講座 ・コーパスの使用，活用　（いずれも英語と日本語を対象とする）

研究内容：話し手の感情を表出する「言いさし表現」の解釈・産出のされ方について

ことばは最も身近にあるツールの１つです。私達は（母語の場合は特に）無意識にことばを使いこなしています。しかしながら、ことばを用いてコミュニケーションが成立する仕組みには今なお解明されていない部分もあります。insubordination（従属節の主節用法、言いさし表現）と呼ばれる言語現象も例外ではありません。英語の例を挙げます。

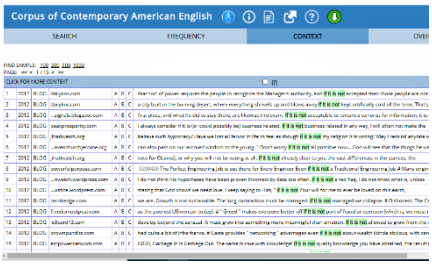
(a) [街で偶然 Peter に出会って] “Well, **if** it isn’t Peter!” 「おやおや、Peter じゃないか！」
(b) [A と B が亡くなった男性について話している]
　A: “Wonder if he left you anything?” 「彼があなたに何か遺したか気にならない？」
　B: “**As if** I cared about that!” 「そんなのどうでもいいわ！」
(c) [友達の暴言を聞いて] “**That** you should say such a thing.”
　「君がそんなことを言う**とは**。」

これらの発話は全て、従属節でできています。規範的には、従属節とは主節に従属して文の一部を形成するものです。ところが実際の言語運用では、(a–c)がそうであるように、必ずしも主節が存在する訳ではありません。日本語にも同様のことが言えます。(d, e)がその例です。

(d) [夜の会社で呟く]「今日も残業**なんて**…」
(e) [頼まれごとを嫌々承諾するとき]「いい**けど**。」

興味深いことに、(a–e)は主節がただ単純に省略されているというよりも、「感情表出」という、元の従属節の意味から乖離した慣習的な機能を持つものとして自立しています（例えば(a)は Peter に会った驚きが、(d)は残業になった残念さが伝わってきます）。私の研究対象はこうした感情表出機能を持つ insubordination です。どのような条件が揃えばある表現が当該 insubordination として解釈・産出されるか、当該 insubordination の使用がどのようにコミュニケーションに貢献するかに関する考察を試みています。

「ことばの森」に流れる不思議な「感情の川」を探検してみませんか。きっと新たな気付きと感動に出会えます。水先案内人としてお手伝いします。



【コーパスによる表現検索の結果画面】
映画、ドラマ、小説、ニュース、議事録、実会話…考えるヒントや証拠となるデータは、いたるところに溢れています

【ことばを使ったやりとり】
ドラマ *The Big Bang Theory* の１シーン

提供可能な設備・機器：

名称・型番（メーカー）	